

ふなかわら



目次

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. 会長あいさつ (小原 侃) …………… 2 | 5. 同期会報告 |
| 2. 学部長あいさつ (武田 健) …………… 3 | 9期生 …………… 7 |
| 3. 定年を迎えて (星野 修) …………… 4 | 7期生 …………… 8 |
| 4. 実践社会薬学講座 (石井甲一) ……… 5 | 6. 1999年度 収支予算 …………… 9 |
| 1) ガイダンス | 7. 1999年度 会計報告 …………… 10 |
| 2) 医薬品企業/行政グループ | 8. 2000年度 収支予算 …………… 11 |
| | 9. 同窓会入会率 (平成12年7月5日現在) 12 |
| | 10. 編集後記 …………… 12 |

同窓会会長挨拶

東京理科大学薬学部同窓会会長 小原 侃

今年も「ふなかわら」発行の時期を迎えました。皆様この1年をどうお過ごしでしたでしょうか。同窓会としては夏の総会で元国立感染症研究所所長の大谷明先生にご足労を戴き、とかく生物系の感触に乏しくなりがちな薬学部教育環境のなかで、ワクチン研究の歴史から最近のトピックスまでという、ご講演を戴いたことは誠に有意義なことであったと思います。また、昨年も10月14日より「実践社会薬学講座」が例年どおり継続開催され、同窓生の奉仕を通じ、在校生との交流、大学教職員との意見交換が行われておりました。

このようにして、少しずつ同窓会活動も地道な実績を積み上げて参りましたが、残念ながら同窓会総会や懇親会への出席者も、決して増えてはいないように見えますし、また、同窓会の活動の基盤となる新会員数の伸びは依然として鈍化の傾向にあり、更なる新入会員の勧誘を通じた健全な同窓費の財源確保が緊急な課題の一つとなって来ております。そのような理由で、準備を行っている「会員名簿」では卒業生の就職している企業を始め多くの企業からの広告掲載をお願いしているところです。幸いにして、現在、既に数多くの企業からのご協力を戴けている、との報告を受けています。このような活動の事務方を石坂先生を始めとする学内の「同窓会幹事」の先生方をお願いし、ご苦勞をお掛けしています。紙面を借りて感謝の言葉を添えさせて戴きます。

そのような折りも折り、長年、話題になっては立ち消えになってきていた薬学部の野田キャンパスへの移転がどうやら本決まりとなり、この計画が実行されれば40年もの間、卒業生に親しまれてきた「神楽坂の薬学部」もその歴史を閉じることになります。そして、薬学部同窓会の運営や活動も少なからぬ影響を受けることになるでしょう。本年は新しいミレニアム2001年が始まりました。同窓会の組織もこのような変化に柔軟に対応していけるように、変革をしていく必要があると考えております。そのためにも、未だ、組織に

参画されていない同窓生のより積極的な参加をお願いしたいと考えております。各期の幹事が率先して同窓生を勧誘し、「同窓会幹事会」への体験参加をお願いするなども一案かと思えます。宜しくお願い致します。

扨て、本文を書くにあたり、今年の「ふなかわら」に寄稿した文章を読み返してみても改めて、混沌の時代は未だ曙光を見出せずにいることを強く感じました。ばれなければ何でもありという風潮は益々拡大しているようにさえ思えます。組織のあるところ多かれ少なかれそういう傾向は避けられないのですが、多くの同窓生がそのような環境の中で、しかし、力強く頑張っておられるものと思います。偶には、それでも挫けそうになることもあるでしょう。そのような事を考えたとき、共通の趣味をもった同窓生が集まって、趣味を通じて人生を語り合える同好会のようなものを発足させるのも、同窓会活動の一つの試みとして意味があるのかも知れないと、現在考えております。我々は既に小グループでのゴルフ同好会や時々ですが企業人の集まりもやっています。IT革命とかいうものに悪乗りするわけではありませんが、パソコン教室とか、色々あると思います。多忙で一同に会せなくてもこの世の中メールで何でも出来ますから、色んな方法での同好会が可能ではないでしょうか。どんどんアイディアを出して下さい。

終わりに、本同窓会設立に多大なご援助とご協力を戴きました滝谷昭司先生のご冥福を心からお祈りさせて戴きます。



学部長挨拶

学部長 武田 健

中村洋前学部長のあとを次ぎ、一昨年10月1日より学部長に就任しました。同窓会の皆様方に一言ご挨拶申し上げます。私の郷里は新潟県柏崎で佐渡がよく見える小さな村です。薬系大学院を終了後医学部で基礎医学の研究と教育に19年間携わり、7年前から理科大で教鞭をとるようになりました。衛生化学が専攻で、ディーゼル排ガスの生殖系への影響や排ガス微粒子に含まれる物質の内分泌攪乱作用に関する研究を行い、石原都知事や環境庁が進めるディーゼル排ガス規制など行政に関わるデータを提供してきました。またダイオキシンやビスフェノールAなど環境ホルモンの生殖系への影響、化学物質による接触皮膚炎などを遺伝子発現のレベルで調べています。DNAチップ等を利用し、ゲノム情報を基にした新しい分子毒性学の確立を目指しています。

東京理科大学は今年創立120年を迎えます。理学部に次いで2番目に古い薬学部は創立41年、卒業生は6000人を超えています。当学部は創立以来神楽坂地区で歴史を刻んで来ましたが、この度将来の東京理科大学の大発展を期し、野田地区に移転することが決まりました。その決定を受け、学外で活躍する学部OB、野田地区の生命系学科や研究所の先生方が加わった薬学部再構築専門委員会（委員長 塚本常務理事）において薬学部のあり方が検討され、新しい研究教育環境を構築するための方策について審議が重ねられてきました。答申がまとめられつつあります。野田移転を機会に理工学部、基礎工学部の関連学科及び研究所等との協力のもとに生命科学・医療に関する総合研究教育施設をつくり、独創的な発想や高度な技術を有する創薬研究者、及び新しい医療薬学を切り開く高度な専門知識を有する薬剤師を養成するなど21世紀の医療や科学の発展に貢献できる薬学部をつくることをその内容の骨子としています。そのためコンピューターサイエンスやゲノムサイエンスの発展を基盤とした薬学の新しい研究

教育体制を確立し、理科大の生命科学分野の発展に貢献するとともに、野田地区将来構想の一つであるリサーチパーク（産学共同研究体制）実現に向けて一歩踏み出すことが期待されています。

大学院は野田地区の理工学部応用生物科学科、基礎工学部生物工学科、生命科学研究所など生命系学科と連携し、新設する創薬情報科学センター、分析センター等を中核に創薬、環境衛生、医療薬学、再生医療などを発展させ、それらを有機的に結び付けつつ高度な研究教育体制を確立すること、また学部教育は当学部の伝統である基礎学力を重視した実力主義を堅持し、コンピューターを活用した情報教育、語学を中心とした教養教育、医療に携わる心の教育を重視していくことが大切と考えています。また時代を先取りした新しい医療薬学を発展させるため、カリキュラムの見直しや医系大学、病院、薬局等と連携することが必要であり、新設する医療薬学教育研究センターを中心に学部と学部外の機関との協力体制を確立することが重要になります。

薬学部再構築に当たり、我々教職員は日本一の薬学部を創ることを目指していますが、既に日本一と思われることがいくつかあります。紙面を借りて紹介させて戴きます。

1) 土曜日午後開かれている講義「実践社会薬学」企業、病院、薬局、官庁などの学部OB（OG）の方々が講師となり、土曜の午後開講している薬に関する総合的な講義で、それぞれの職場で現実に関わっている事柄を深く掘り下げながら、臨場感溢れるお話をして戴いています。受講する学生達の評判は高く、講義がきっかけで進路を決定したという学生も多数います。大学にいる先生方にはできない、また教科書には載っていない講義であり、OBによる日本一の実践的な社会薬学の選択科目だと思います。

2) ノート型パソコンを使った情報教育

現在1年生全員にノート型パソコンを購入してもらい、必修科目として1年間情報教育を行っています。始めてからまる4年が経ち、現在4年生まで全学部学生がパソコンを持ち歩いていることとなります。薬系大学では情報教育の基礎をここまで徹底して身に付けさせているところは他にまだないようです。

3) 卒業研究発表会

4年生の全員が4月から12月まで卒業研究を行い、その総決算として12月下旬に10号館実習室4部屋を使って展示方式の研究発表会を行っています。助手以上の全教員が座長になり質問する他、大学院生も加わります。また3年生が教室配属の参考にするため真剣に討論に参加するので、学会の発表以上に熱気に溢れています。4年生にとっては良い経験になると同時に、研究室間や学年の枠を越えた交流の場になっています。文部省視察の際、委員からもユニークな試みとして高い評価

を受けました。

今後卒業生の皆様方の協力、支援をどれだけ得られるかが薬学部発展の大きな鍵になると思います。従って神楽坂から野田へ、地理的なハンデイを乗り越え、開かれた学部をどのようにつくっていくか、再構築のもう一つの課題です。学部の研究施設や各種センターの活用、共同研究、学部、大学院の講義や実習への参加、薬剤師実務実習など協力、支援を賜らなければならないことがたくさんあります。また神楽坂地区に生涯教育、社会人教育など卒業生との接点になる場を確保し、相互に協力し合い、交流することが益々大事になると思われまます。

21世紀、我が学部が薬学の研究教育において新しい地平を切り開き、飛躍できるよう教職員一同努力したいと思います。薬学部再構築には同窓会の皆様方の応援が是非必要となります。絶大なご協力とご支援を切にお願いする次第です。(積極的なご提案やご意見をお待ちしています (takeda@ps.kagu.sut.ac.jp))



定年を迎えて

薬化学 星野 修

同窓会広報担当者から定年を迎えるに当たり、何か書くようにと依頼され、いざペンを取ってみると、いろいろな思い出が走馬燈のように駆け巡り、十分に文章としてまとめることができなかつた。しかし、ようやくこの拙文を寄稿することができたので、その責任を果たしたい。

1966年(昭和41年)10月に梅澤文輔教授が主宰する薬化学研究室の榊原仁作助教授(現名古屋市立大学名誉教授)の後任として理化学研究所から赴任した。当時、研究室は原博(現分子薬学研究室助教授、本年4月より教授に昇任予定)、大山恵子(退職)、沢木正平(現高山ケミカル(株))各助手に私を加えて5人の体制で、講義、実習を担当した。一学年が200名に近い学生諸氏の実習を5人で分担することにはいささか戸惑った実験の面白さが少しでも伝わればと思いながら夢中で過ごしたことは、今では楽しい思い出の一

つである。

赴任間もなく全国的に大学紛争が起こり、薬学部もその火中になったが、大学は教育と研究の場であるとの学生諸氏の見識から薬学部での教育・研究が維持されたことも思い出深い出来事であった。

講義は有機化学の有機反応機構部分を担当し、学生諸氏と共にいろいろと勉強させてもらった。その後有機化学(I, II)、同演習を分担したが、実習を除いて片方の学科(主に薬学科)であったので、受講者数の面で講義は比較的進めやすかつた。この間、1980年(昭和55年)4月に教授に昇任したが、梅澤文輔教授を中心とする薬化学研究室の研究体制も円熟し、テトラヒドロイソキノリンの化学の研究を大いに進展させることができたと自負している。

1988年5月24日に学生諸氏に親しまれていた

梅澤文輔教授が突発性間質性肺炎という病名で突然他界される悲しい出来事（本会誌2号に先生の思い出を寄稿）に遭遇した（薬学部では、長谷川育、森脇千秋、守屋 寛、鈴木静夫各教授が現役中に亡くなられている）。その後、薬化学研究室を継いで、原 博助教授、小笠原弘道（現国立薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター審査官）、村形政利、石崎 幸各助手を中心に大学院生、卒研生と共に複素環の化学、包接化合物の化学、天然物の全合成、新しい不斉反応の開発などの基礎研究を進めることができたことは大変幸福であったと思っている。

講義では、薬化学（故梅澤文輔名誉教授の担当科目）と医薬化学（山川浩司元教授の担当科目）を担当することになり、薬学における有機化学の重要性の一部を学生諸氏に若干なりとも伝えることができたと思っている。

物質的には必ずしも十分とは言えない時代ではあったが、研究環境に恵まれて四半世紀以上の長い間、楽しく教育と研究に携わることができたことを薬学部の先輩教授、教職員及び事務の方々

らに研究室の教職員と卒業生の諸氏に深甚の謝意を述べたい。

また、過ぎ去ってしまったことではあるが、講義での進捗の速さと板書のまずさから学生諸氏を大変戸惑わせたことを学生諸氏にお詫びしたいと思っている。

最後に、永年の懸案であった薬学部の改築も新ミレニアムの幕開けと共に、野田キャンパスで実現する運びとなり、同窓生諸氏と教職員との強い絆によって薬学部が21世紀においてさらなる飛躍と発展をとげることを期待すると共に皆様の御健康と御繁栄を祈念しつつ、この拙文のペンを置きたい。



実践社会薬学講座 1)

ガイダンス

11期 石井 甲一

実践社会薬学講座も5年目を迎え、10月14日（土）よりスタートしました。私の担当は講座全体のガイダンスということで、実践社会薬学を始めた理由、講義をする先輩の説明、現在の薬剤師の状況、行政（厚生省）におけるこれまでの業務経験等をできるだけ易しく説明した・・つもりです。今年は2年生を中心に1年生も少なからず出席していたとのことでした。理科大の学生はまじめで、できるだけ前の席に着くようにとの指示に全員が従っており、講義中の居眠りや無駄口は一切無く、非常に楽しく講義をすることができました。

私の講義は例年と同様、レジメと関係資料のみで行い、スライドとか最近流行のパワーポイントは用いない（使える能力がない、というのが本当の所）ものでした。

まず、学生のうちに「卒業後どのような社会貢献ができるのか」を、社会に出て医薬品関係の仕事をしている先輩達が自らの経験を語ることで知ってもらおう、というのが本講座を始めた理由であること、12月9日までの間に7日間実施し、一日目が全体のガイダンスと医薬品企業関係のガイダンスを行い、2日間で医薬品企業における業務と医薬品の承認審査等を担当する行政における仕事を講義し、残りの4日間では直接患者に接し、薬剤師の免許を使っている先輩から現場話がなされることを説明してから本論に入りました。

薬剤師を取り巻く状況としては、薬学卒業生の進路先として10年前のトップが製薬会社（約40%）であったものが昨年3月のトップは薬局（約25%）であり、製薬会社は約10%と激減していること、民間の調査会社が行った職業に対する

意識調査のうち、信頼度について米国では11年連続で薬剤師がトップであり、昨年初めて2位となったこと、国内の調査では本年度4位で医師よりも上にランクされていること等を説明しました。

次に、厚生省における業務経験を踏まえながら、薬剤師法の改正の意義や医薬分業の目的、医薬品の種類、審査とは何か、血液も医薬品であること、血液凝固因子濃縮製剤が如何に血友病患者の役に立ったかということとエイズとの関わり、医薬品

の主作用と副作用、安全対策とは何か、食品添加物やいわゆる環境ホルモン問題、雪印乳業の食中毒事件等を解説し、最後に薬剤師業務は医薬品使用におけるリスクマネジメントであり、医療の担い手として責任のとれる薬剤師でなければならず、そのような薬剤師を生み出す薬学教育でなければならないことを述べ、講義を締めくくりました。時間が足りず、最後は急ぎすぎて学生に迷惑をかけてしまったと反省しています。

実践社会薬学講座 2)

医薬品企業／行政グループ

7期生 寺山 博行

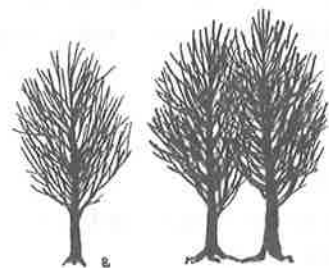
卒業生の多くが医薬品企業へ就職する傾向が強かった本学薬学部にあつては、医薬分業の進展、病棟薬剤師への期待、服薬指導強化など薬剤師本来の職能を求める声が日増しに高まりを見せる中で、卒業生の進路も大きく変わってきています。薬学教育の内容もそうした変化を読みとり、社会のニーズに答えることが益々必要になって来ています。

実践社会薬学講座は、本学卒業生が講師となつて、こうした社会のニーズを、具体的に、実践的に、実体験に照らして後輩薬学生に伝えていこうとする試みとしてスタートしました。しかしながら、伝える側の講師の思いとは裏腹に、伝えられる側の薬学生にとっては、難解で興味のわからない講義になっていたことがアンケート調査の結果から判明しました。そこで、5年目の今年は、講義内容の難易度を良く吟味し、課題の選択や講義に使うツールを改善してみました。

医薬品企業の機能を創薬、開発、生産、MR、医薬情報収集・伝達の5部門に分け、それぞれ10年以上のキャリアを持つ卒業生が教壇に立ちました。また、医薬品の許認可や医薬品情報の収集・伝達は企業と行政の二人三脚がポイントとなる部門であることから、今年は行政側で活躍中の卒業生が講師を務めてくれました。講師自らの失敗や成功体験、学生への提言や自らの夢を語つ

てくれたことが、好評だったようです。

実践社会薬学講座は、実は薬学生のためだけに設けられたのではないように思います。講師を務める卒業生にとっては、実体験を要領よく発表する晴れの舞台なのです。ある講師は出張先から戻る列車の中で講義文を考え、夜なべしてパワーポイントを作り上げました。時間との格闘により出来上がった講義資料を手にして教壇に立ち、学生の反応を気にしながら、不慣れな講義を懸命にこなしました。講義の後に、学生からの少しの反応があればやり甲斐を感じて喜びます。そして、来年もまた進んで講師を務めたいと考えている卒業生が多いことを知ったとき、本学卒業生の一員であることの誇りと、卒業生の連帯する大切さを感じしみと実感する機会ともなりました。



同期会報告

9期生

去る7月12日17時より、外堀通りのトリノにおいて、35名の参加者のもと、第7回目の9期生同期会を開催しました。オリンピック年の4年毎の開催とあって常連の方々も多く、初参加の方もすぐに親しさを取り戻し盛会の内に終了しました。

乾杯の音頭取りは「一番遠方の人」などのリクエストに鹿児島の方が立候補して拍手を浴びたり、研究室ごとの近況報告で一挙に青春時代に逆戻りしたようでした。当時の面影を探りながらも総じてスリムな方が多いのにはびっくり。健康に

注意する職業又は意識のなせる技でしょうか。思い出から始まって製菓業界の厳しい状況、ケアマネジャーなどの仕事の社会情勢、これからの人生（子供、介護）など、刺激も話題も満載の数時間を過ごしました。

今回は冬季オリンピックもあることだし、期間を短縮し、2002年に、幹事岩本富幸氏ほか数名で開催されることに決定しました。

(畠山富美子 記)



7期（昭和45年卒）

私達7期生の同期会は、平成12年5月19日（土曜日）、神楽坂上の毘沙門天にほど近い出版記念クラブで行われました。平成8年5月に初めて開催された同期会では、4年に一度のオリンピックに合わせて4年毎に再会しようという約束がなされ、今年はその4年目に当たりました。また、今年は理科大学を卒業した1970年（昭和45年）から数えて丁度30年目の記念すべき年でした。出席者数は一回目の182名から86名に減りましたが、北は北海道、南は沖縄から大勢の同期生が上京してきました。2回目ということで親しみが増して来たのでしょうか、世話人会が用意した2次会にもほぼ全員が出席。思い出話や近況報告の続きは終わりそうになく、3次会の場所を確保したところ、予想を上回る40名が出席し、予算オーバーに泣く始末となりました。

私達7期生は、昭和22年生まれを中核とする団塊の世代です。戦後のベビーブームの先頭を行く集団の中で育ち、小学校のプレハブ校舎での複式授業や、高校、大学受験の大競争時代を経験した世代でもあります。卒業した昭和45年は、日本の経済成長が絶頂期にあり、就職は極めて楽なもので、誰もが豊かな社会の実現を信じて疑いませんでした。昭和48年の石油ショックも難なくかわし、物質的豊かさを求めてひたすら走り続けていたように思います。

同期生の多くが医薬品企業へ就職する傾向が強かった時代でしたが、この30年の間に医療費削減という大波を何度も受け、医薬分業の進展、病棟薬剤師への期待、服薬指導強化など薬剤師本来の職能を求める声が増しに高まりを見せる一方で、医薬品企業の再編や医療機関の変革など、経済システムの構造的変革が進められています。折しも私達7期生は、数年前に50歳の壁を越えたところで、減速経済の中でお荷物であるかのように白い目で見られている世代だと言われていきます。しかし、生まれながらにして大競争時代に生きてきた私達は、いまだにやる気十分であり、社会的要請に応える勤めが残っている世代であると考えています。

同期会のもっぱらの話題は、子育てから開放された充足感、リストラ時代の生き方、高齢な両親の介護問題です。知恵を出し合い、心の充足を求めて、2004年の3回目同期会で再会することを約束して散会しました。

（寺山博行 記）



東京理科大学薬学部同窓会

1999年度収支予算

1999年4月1日～2000年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,000,000	人件費	700,000
利息	50,000	電話代	40,000
講演会参加費	10,000	会議費	30,000
		会報印刷費	450,000
		会報発行発送経費	450,000
		諸案内状印刷費	400,000
		通信費	400,000
		コピー代	80,000
		講演会謝金	50,000
		運動会寄付金	50,000
		交際費	18,900
		名簿作製準備金	500,000
		同期会協賛金	150,000
		雑費	100,000
合計	2,060,000	合計	3,418,900

当期収入	2,060,000	当期支出	3,418,900
前年度繰越金	27,543,719	次年度繰越金	26,184,819

1999年度収支決算

1999年4月1日～2000年3月31日

収入の部		支出の部		備考
内訳	金額	内訳	金額	
同窓会費	1,664,500	人件費	616,800	
利息	33,062	電話代	35,598	
講演会参加費	12,000	会議費	23,693	
雑収入	50,000	会報印刷費	436,123	
		会報発送経費	442,751	
		諸案内状印刷費	388,500	
		通信費	469,746	はがき、切手、 宅急便、FAX、案 内状郵送費
		コピー代	15,000	
		講演会謝金	50,000	
		運動会寄付金	50,000	
		交際費	6,300	中元・歳暮
		名簿作製準備金	580,294	コンピューター2 台、ソフト代
		同期会協賛金	150,000	
		雑費	90,152	講師交通費、振 り込み手数料、 過剰会費返却等
合計	1,759,562	合計	3,354,957	

前年度繰越金	27,543,719
今年度残高	-1,595,395
次年度へ繰越	25,948,324

資産内訳	
定期預金(三和)	12,000,000
郵便定額預金	12,663,920
普通預貯金	1,284,404
計	25,948,324

1999年度会計報告

東京理科大学薬学部同窓会

1999年4月1日～2000年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	1,664,500	人件費	616,800
利息	33,062	電話代	35,598
講演会参加費	12,000	会議費	23,693
雑収入	50,000	会報印刷費	436,123
		会報発送経費	442,751
		諸案内状印刷費	388,500
		通信費	469,746
		コピー代	15,000
		講演会謝金	50,000
		運動会寄付金	50,000
		交際費	6,300
		名簿作製準備金	580,294
		同期会協賛金	150,000
		雑費	90,152
合計	1,759,562	合計	3,354,957

前年度繰越金 27,543,719
 今年度残高 -1,595,395
 次年度へ繰越 25,948,324

資産内訳
 定期預金(三和) 12,000,000
 郵便定額預金 12,663,920
 普通預貯金 1,284,404
 計 25,948,324

以上の通り会計報告いたします

2000年6月1日

会計

池北 雅彦
 村松 延弘



監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

1999年6月10日

会計監査

安達 順一
 岡宮 智子



東京理科大学薬学部同窓会

2000年度収支予算

2000年4月1日～2001年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,000,000	人件費	700,000
利息	30,000	電話代	40,000
講演会参加費	10,000	会議費	30,000
名簿広告収入	1,000,000	会報印刷費	450,000
		会報発行発送経費	450,000
		諸案内状印刷費	400,000
		通信費	400,000
		コピー代	80,000
		講演会謝金	50,000
		運動会寄付金	50,000
		交際費	18,900
		名簿作製費	3,000,000
		名簿郵送費	1,000,000
		同期会協賛金	150,000
		雑費	100,000
合計	3,040,000	合計	6,918,900

当期収入	3,040,000	当期支出	6,918,900
前年度繰越金	25,948,324	次年度繰越金	22,069,424

薬学部同窓会・年次別の入会者比率

同窓会入会率（平成12年7月5日現在）

期	会員数	正会員数	入会率%
1	124	88	71.0
2	139	98	70.5
3	158	75	47.5
4	135	77	57.0
5	183	99	54.1
6	188	63	33.5
7	190	74	38.9
8	155	56	36.1
9	174	70	40.2
10	169	54	32.0
11	181	80	44.2
12	250	86	34.4
13	175	55	31.4
14	192	53	27.6
15	137	41	29.9
16	175	55	31.4
17	183	54	29.5
18	199	49	24.6
19	159	28	17.6
20	185	49	26.5

期	会員数	正会員数	入会率%
21	188	46	24.5
22	188	52	27.7
23	179	49	27.4
24	189	37	19.6
25	160	26	16.3
26	169	27	16.0
27	200	25	12.5
28	241	23	9.5
29	178	21	11.8
30	180	11	6.1
31	200	22	11.0
32	176	16	9.1
33	200	18	9.0
34	169	3	1.8
35	178	4	2.2
36	170	2	1.2
37	180	2	1.1
計	6596	1688	25.6
大学院*	161	11	6.8

* 理大薬学部卒業生を除いて

編集後記

例年、同窓会会報は年末にお手元に届けられておりましたが、今年は幹事の不幸等あり、発行が大幅に遅れてしまったこと、まずお詫びいたします。

Internetが一般社会にも浸透し、同窓会もドメインを取得してホームページの立ち上げを検討しております。ホームページが立ち上がれば、会員の方への連絡等もより速やかに行われるのではないかと期待されます。

Internetが社会に浸透する一方、医薬分業も我々が想像する以上のスピードで広がりを見せ、社会に根づいてきました。これに従い、薬剤師不足が深刻化しております。これに拍車をかけたのが社会問題になったドラッグストアでの薬剤師不在です。

薬剤師の絶対数の不足に対して、都道府県薬剤師会でも公共職業安定所（ハローワーク）で許可を受け、薬剤師の無料職業紹介を行っていることもあります。医薬分業のより実行のある発展のためにも同窓会の方々で未就業の方は社会参加してはいかがでしょうかと思います。

最近、埼玉県薬剤師会からも同窓会報では是非ご紹介頂きたいとの依頼がありましたので紹介致します。

社団法人 埼玉県薬剤師会 薬剤師無料職業紹介所

電話 048-653-5261